

## 論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	腫瘍制御科学領域 腫瘍病理学教育研究分野 氏名 平井秀明
指導教授氏名	鬼島 宏
論文審査担当者	主 査 黒瀬 顕 副 査 水上浩哉, 福田眞作
(論文題目) Clinicopathological significance of gastric poorly differentiated medullary carcinoma (低分化髄様胃癌の臨床病理学的特徴)	
(論文審査の要旨)  <p>胃癌は今なお癌による死亡原因の上位を占める重要な疾患である。胃癌の組織型の一つである充実型低分化腺癌は非充実型低分化腺癌と比べて一般に予後良好とされているがその詳細な臨床病理学的特徴を検討した報告は少ない。申請者は充実型低分化腺癌を髄様癌と非髄様癌に分けそれぞれの臨床病理学的特徴を検討した。</p> <p>外科的に切除された 61 例の充実型低分化腺癌のうち、1) 腫瘍の 90%以上を充実型低分化腺癌が占め、2) 膨張性発育を示し、3) 神経内分泌癌等の特殊型胃癌を除外したものを髄様癌、それ以外のものを非髄様癌と定義し、それぞれの臨床病理学的因子を調べた。予後調査可能であった 35 症例については髄様癌と非髄様癌それぞれの無病生存期間と全生存期間を調べた。</p> <p>その結果、61 例中髄様癌は 23 例、非髄様癌は 38 例であった。Borrmann 分類では髄様癌は type 2 が、非髄様癌は type 3 が多かった。髄様癌は膨張性増生を示し周囲との境界が明瞭であったが、非髄様癌は小胞巣状構造や孤在性構造が部分的に認められた。髄様癌は非髄様癌に比して静脈侵襲(P=0.002)、リンパ管侵襲(P&lt;0.001)、リンパ節転移(P&lt;0.001)が有意に少なかった。髄様癌は非髄様癌に比べ無病生存期間が良好であった(P=0.017)。全生存期間は両者において有意差はみられなかった(P=0.079)が、髄様癌の方が良好である傾向を示した。</p> <p>これらの結果から、申請者らの定義した髄様癌は非髄様癌と比べ脈管侵襲やリンパ節転移が少なく、予後良好な明かな疾患単位と認識される腫瘍型であることが判明した。</p> <p>本研究は新たな胃癌の疾患単位「低分化髄様胃癌」を臨床病理学的根拠をもって提唱したものであり、今後の胃癌の研究や臨床医学に資するところ極めて大であると認められ、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	Biomedical Research に受理済み (vol.37, No.2, April 2016 に掲載予定)